

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 5月21日更新

事務事業名		学童クラブ等障害児受入事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	荒牧 聡
	施策	4 子育て支援の充実				所属課	子育て支援課	担当者名	氏森 美穂
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	保育班	(内線)	1184
予算科目		会計一般	款3	項2	目4	事業連番11442	根拠法令	合志市学童クラブ等障害児受入事業実施要綱 成果優先度評価結果：⑥ コスト削減優先度評価結果：⑨	
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度		

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	発達障害等の障害児を受入れている放課後学童クラブに対して、専門知識等を有する障害児対応支援員を派遣し、障害児の保育支援を行う事業。 放課後学童クラブで発達障害等の障害児を受入れる場合、これまでは障害児受入れ加算として学童クラブを運営している保護者会等への補助金に上乗せして補助していたが、国の制度変更により障害児の受入れ体制を強化するとして、専門知識等を有する障害児対応支援員を市が派遣若しくは育成することに変更されたため、この事業が必要となった。 さらに平成27年度より障害児を5人以上受入を行っている学童クラブに対して、専門的知識等を有する障害児対応支援員を複数配置することで放課後児童健全育成事業の円滑な実施を図ることを目的とし新たな事業が追加された。また平成29年度からは3人以上受入へ補助対象が拡大された。補助金の負担割合は国県市各1/3。
【業務の流れ】	①事業打合せ ②事業施行伺い ③事業委託契約伺い ④委託契約書締結 ⑤支出負担行為 ⑤実績報告書・請求書受付、審査 ⑥支出命令書
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	放課後学童クラブにおける障害児の受入れ体制の強化について、議員からの一般質問がなされている。(H19第4回定例会) 学童クラブからも、発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンのこどもが近年急増しており、支援員の確保のためにはぜひ本事業を実施継続して欲しいとの意見が出ている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動)(DO) 市内学童クラブの20クラブのうち、障害児を受け入れた19クラブに委託した。 平成29年度においては3人以上の障害児を受け入れた学童クラブは1クラブ。		30年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 障害児を受け入れる市内学童クラブと委託契約を行い、専門的な知識を有した放課後児童支援員を配置する。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由	
→ア:放課後学童クラブ数	→イ:国・県補助金の交付基準額の増に伴う委託料の増額	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
→学童クラブが受け入れている障害児数	→ア:学童クラブの受入れ障害児数	人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
→安心して子育てができる。	→ア:障害児を受け入れている学童クラブ数	クラブ
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
障害児を受け入れている学童クラブに対して実施する事業であるため、学童クラブ数とした。		全体計画
		～年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込	
① 活動指標		アイクラブ	15	19	19	20	21	23	23	29	
② 対象指標		アイ人	40	32	27	29	30	30	30	30	
③ 成果指標		アイクラブ	15	17	18	19	21	22	22	28	
投資 入費 量	事業 内訳	財源	国庫支出金	千円	10,842	9,904	12,235	12,235	14,368	12,235	12,235
		都道府県支出金	千円	10,842	7,724	12,235	11,653	14,368	12,235	12,235	12,235
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	10,844	12,088	12,238	12,032	14,368	12,238	12,238	12,238
	(A)事業費計	(A)事業費計	千円	32,528	29,716	36,708	35,920	43,104	36,708	36,708	36,708
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	1	3	1	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	150	100	150	100	150	150	150	150
		(B)人件費計	千円	556	0	597	395	597	597	597	597
トータルコスト(A)+(B)			千円	33,084	29,716	37,305	36,315	43,701	37,305	37,305	

事務事業名	学童クラブ等障害児受入事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	---------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度の後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】 障害児を受け入れている学童クラブ全てに委託したため達成できた。
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 障害児を受け入れている学童クラブ全てに委託するため目標達成の見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 障害児を受け入れに伴う県主催指導員研修等が年数回実施され、参加することによって指導員の質の向上に努めた。また、平成26年度より本市においても研修会を実施している。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 放課後児童学童クラブで障害のある児童の預かりを行う事業であるため他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 委託料は国の定める基準以内で設定している。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の職員で対応している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の対象は障害児を受け入れる学童クラブ自体であるため、当該事業を行うことで学童クラブ全体の子どもの健全育成につながり公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 支援を要する児童の預かりであるため、責任の度合いが大きく役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

障害児や発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンの児童がいる学童クラブに、県が実施する講習会に参加した専門知識を要する指導員を配置することで適切な支援ができた。また、本市においても障害児受入に関する研修会を実施した。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可					(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																									
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善）					<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																												
		削減	維持	増加																										
成果	向上																													
	維持		○																											
	低下																													
☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善）																														
☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																														

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策